



生ごみお宝通信 第18号

18. 12. 20

発行：江東区生ごみお宝倶楽部



Merry Christmas & a Happy New Year

お宝倶楽部はこの秋、学習会、見学会、生ごみ減量相談会、芋煮会など様々な行事がありました。今号は世話人で記事の分担をし、活動の報告をさせていただきます。

2018年は豪雨や地震、猛暑、台風など災害の多い年でしたが、皆様にとってはどんな年でしたでしょうか。今年も残りわずかとなりましたが、皆さまもご健康に留意され、良い年をお迎えください。

学習会「生ごみ堆肥作りの基礎を学ぶ」を終えて

10月17日に、長年生ごみ堆肥の研究に携わり関連の著書も多数の藤原俊六郎先生をお招きして、「生ごみ堆肥作りの基礎を学ぶ」と題した学習会を開催しました。以前にも会員交流の場として、ハンギングバスケットやリース作りなどをしてきましたが、今年度は活動計画に沿って初めて学びの場を企画。果たして参加者が集まるかの心配をよそに、定員を超える33名の出席で部屋がいっぱいになりました。

大学生とは40～50歳ほどの年の差の私たちを相手に先生は戸惑われるのではと案じたのも杞憂、写真やイラスト、グラフなどを多用した資料は大変分かりやすく、ジョークを交えての熱心なお話を伺い、大変有意義な時を共有いたしました。(岡本)



<10/25 “せせらぎ農園” 見学に9名で行ってきました>

日野市の浅川近くの『せせらぎ農園』には広々とした畑や田んぼが広がっていました。田んぼでは近隣の小学生やお母さん達の脱穀作業が終わった後でした。続いて生ごみを畑にすきこむ作業の見学。生ごみは各家庭で竹パウダーを混ぜてバケツに入れておき週1回トラックで運んできます。畑では撒いた生ごみに米糠等を入れて耕運機で混ぜ込み、上にシートをかぶせて雨を防ぎ、土の上で直接発酵させる「土ごと発酵」をしています。5日前に入れた土の中は発酵でほかほか暖かく、約1か月ほどで種まきや植え付けができるとのこと。様々な作業をすべて当番制もなくやっているのが驚きでした。収穫物は作業した参加者に当日分配し余った野菜は販売。毎月採れたての野菜を使った食農体験を開催したり、地域の保育園や児童館、小学校などの体験学習、その他地域や様々な主体と連携した幅広い活動に感動しました。

昼食を食べながら交流タイムには、採れた野菜で作った様々な美味しい料理をご馳走になりました。代表の佐藤美千代さんは、生ごみの受入先となる農地や緑地をこれ以上減らさず、空き地や休耕田を市民が耕せるしくみが必要であり、緑豊かな美しいまちを創造していく協働の庭づくり活動を広げていきたいと熱く語ってくださいました。(伊藤)

